



特別展

伊豆半島 仏像めぐり

2019年4月6日(土) — 6月30日(日)

伊豆13市町の仏たち



同時開催
画家たちの旅
— 梅原龍三郎、牛島憲之、
ルノワールが見た風景 —

静岡デスティネーション・キャンペーン記念

美術館で旅する伊豆半島と、美しき風景

火山が生んだ大地を大小の河川や海が長い時をかけて刻み、複雑で美しい地形を作り上げた伊豆半島。変化に富む地形は、人々の多様な営みを生み、地域ごとに特色ある歴史を紡ぎだしてきました。

仏教館特別展「伊豆半島仏像めぐり」では、伊豆に存在する7つの市と6つの町からそれぞれ1点ずつ仏像を選び、展示いたします。時代は平安時代から江戸時代まで、大きさも選ばれた基準もさまざまですが、それぞれ各地の人々の信仰を集め、護り伝えられてきた貴重な文化財です。13市町代表の仏像から、それぞれの土地の魅力を感じとっていただければ幸いです。

また近代館では「画家たちの旅」と題した企画展を同時開催いたします。画家たちは旅をして、まだ見ぬ風景や人々と出会い、新しい絵画を生み出してきました。本展では梅原龍三郎、牛島憲之からルノワールやシスレーなど印象派の画家たちまで、旅からインスピレーションを得た絵画の数々をご紹介します。

今回開催する2つの展覧会は、2019年4月～6月にかけて行われる静岡デスティネーション・キャンペーン*を記念して、伊豆半島各地のかくれた魅力と文化を発信、ご紹介する内容です。

*静岡デスティネーション・キャンペーン(静岡DC)

本キャンペーンは静岡県内の自治体・関係者、JR各社及び観光会社が協力し、観光地としての静岡県の魅力を全国に発信し、観光誘客をはかり、さらに地域の活性化を目指すキャンペーンです。

展覧会概要

- 1) 展覧会名 【仏教館】 特別展「伊豆半島仏像めぐりー伊豆 13 市町の仏たちー」
 【近代館】 企画展「画家たちの旅ー梅原龍三郎、牛島憲之、ルノワールが見た風景ー」
- 2) 会期 2019 年 4 月 6 日(土)～6 月 30 日(日) 86 日間
- 3) 開館時間 9:00-17:00(最終入館は 16:30 まで)
- 4) 会場 上原美術館 仏教館・近代館
 〒413-0715 静岡県下田市宇土金 341
- 5) 料金 一般 1,000 円／学生 500 円／高校生以下無料
 ※団体 10 名以上 10%割引
 ※障がい者手帳をお持ちの方は半額になります
- 6) 関連イベント ○学芸員によるギャラリートーク(作品解説)
 両館の展覧会をそれぞれ学芸員がご案内します。
 日時:会期中の毎月第3土曜日 11:00～／14:00～(仏教館・近代館約 30 分ずつ)
 会場:上原美術館 ※要入館券 当日、仏教館にお集まりください。
- 学芸員によるレクチャー(ミニ講座)
 開催中の特別展『伊豆半島仏像めぐり』の展覧会担当者が映像を交えながら、展覧会
 の見どころをお話します。
 演題:伊豆半島仏像めぐり
 講師:田島整(仏教館本展担当者・主任学芸員)
 日時:4/22(月)、5/26(日)、6/2(日)13:30～15:30(開場 13:00～)
 ※各回とも講座内容は同じになります
 会場:上原美術館【近代館】会議室 ※要入館券
 定員:各回とも 30 名。要予約。先着順。
 参加方法:①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 ④参加人数(2 名様まで) ⑤希望参
 加日を明記の上、郵便はがき、もしくはEメール(info@uehara-museum.or.jp)
 にてお申込みください。
- 7) 販売物 仏教館特別展「伊豆半島仏像めぐり」は展覧会図録を発行いたします。
 図録販売開始:2019 年 4 月 27 日(土)より販売予定
 価格:1冊500円(税込)予定です。
 ※今回は近代館の展覧会図録発行はございません。

一 展覧会の見どころ

【仏教館】伊豆半島仏像めぐり -伊豆 13 市町の仏たち-

■ 魅力的な仏像、久々の寺外公開！

伊豆の国市・北條寺^{ほうじょうじ}からは、鎌倉後期～南北朝時代につくられた《観音菩薩坐像》（静岡県指定文化財）を公開します。本像は片足を踏み下げ、くつろいだ姿と女性的でどこか妖艶な姿が印象的なお像で、中国・宋～元時代の影響を強く受けた仏像。東京国立博物館、MOA 美術館、遠くイタリアでと、何度も展示されてきた伊豆を代表する美しい仏像ですが、今回 14 年ぶりの寺外公開が実現しました。

三島市からは 光安寺^{こうあんじ}の《地藏菩薩坐像》（市指定文化財）を展示。鎌倉時代の等身大の像で、自ら牛の鼻緒を引いて水田の代掻きを手伝い、農家を助けたと伝えられ、「鼻取り地藏」の愛称で知られる伝説の仏像です。本像の寺外での公開は 27 年ぶりです。

■ 伊豆半島の魅力再発見！個性あふれる仏たち

伊豆半島を構成する 13 の市町には、それぞれの歴史があり、個性的な信仰や文化が今に伝えられています。本展で初公開される東伊豆町・個人蔵の《野寄牛助家次像》^{のざきうしのすけいえつぐ}は、従来知られてこなかった伊豆東海岸の戦国武士の面影を今に伝える江戸時代の傑作です。

また南伊豆町・青龍寺^{せいりゅうじ}の《阿弥陀如来像》^{あみだにょらいぞう}は、手石弥陀窟^{ていしみてくつ}（国天然記念物）の上に建てられた今は失われたお堂の本尊。手石弥陀窟は海に開口した洞窟で、洞内を小舟で進むと、闇の中に光り輝く阿弥陀三尊の姿が浮かぶといい、江戸時代には大変な人気スポットとして遠く江戸の町にまでその名が知られていました。弥陀窟にまつわる本像は像高 15cm ほどの小像ながら精緻な作りで、江戸の町で活躍した江戸仏師による力作です。

■ 当館の調査で見出された新発見の仏像を公開！

沼津市 赤野 観音堂^{あけの}の天部立像は、秘仏本尊・十一面観音立像を守る仏像。両腕や右足を失う姿ながら、当館の調査で、写実的で力強い作風から鎌倉時代の貴重な仏像と判明。今回が初公開となります。また伊豆市・修禅寺^{しゆぜんじ}の伝観音菩薩坐像^{でんかんのんぼさつざぞう}は、当館の調査で、伊豆では作例が知られていなかった院派^{いんぱぶつし} 仏師が制作した仏像であることが判明しました。

【近代館】画家たちの旅 -梅原龍三郎、牛島憲之、ルノワールが見た風景-

■ 新収蔵の牛島憲之《夕月富士》初公開

牛島憲之^{うしじまのりゆき}《夕月富士》^{ゆうづきふじ}（1987 年）は 2018 年度、当館で新たに収蔵した作品の一つで、本展で初公開となります。山中湖の夕暮れの富士を描いたこの作品は、牛島が 87 歳のときに描いたもの。牛島は歳を取るほど豊かな芸術を生み出しましたが、人生の旅路の後半に近づきつつも、これほど美しい風景画を描き出すその力に圧倒されます。

また牛島は伊豆・下田に別荘を構え、度々この地を訪れました。82 歳の時に描いた《雨明かる》^{あめあ}（1982 年）は下田の白浜^{いたど}・板戸海岸で描いた風景で、柔らかに光る雨上がりの海面を見事にとらえています。本展では、下田周辺を捉えたスケッチブックも展示する予定です。

■ 梅原龍三郎、安井曾太郎らの旅の風景

梅原龍三郎は 1939(昭和 14)年に北京を訪ね、その美しさに魅了されました。日記には「四方の眺め美しく誠に夢の國なり」、「北京の四十二日夢の如し」と記されており、後に「これまでの人生の中でも一番張りのある時であったと思っている」というほど、そこでの制作は充実していました。戦後、大きく改変された北京の街並みですが、緑豊かな《北京長安街》(1939 年)の風景を見ると、旅先で出会った画家の新鮮な感動が甦るようです。

また、ヨーロッパは画家たちの憧れの地でもありました。20 歳で渡欧した安井曾太郎は、はじめピサロやミレーなどに学びながら、次第にセザンヌへと傾倒し、「何を見てもセザンヌのやうに見えるので困りました」と後に述べるほど大きな影響を受けました。その様子は安井が渡欧期に描いた《小高き丘》(1913 年)にも見るすることができます。

■ ルノワール《アルジャントウイユの橋》など印象派の旅も紹介

第 2 展示室では、フランスの画家たちの旅に焦点を当てます。《アルジャントウイユの橋》(1873 年)はルノワールが 32 歳で描いた作品です。当時、友人の画家モネは、パリから鉄道で約 20 分のアルジャントウイユに暮らしていました。ルノワールは度々ここを訪ね、ともに制作を重ねます。この絵に描かれた鉄道は 1851 年に完成したばかり、当時アルジャントウイユは日帰りのレジャー地として人気を集めていました。煙を吐きながら鉄橋を渡る機関車には、当時の旅の様子が垣間見えます。

関連資料として、19 世紀後半に発行されたフランスのガイドブックも展示します。

一 主な出品予定作品

[仏教館] 作品総数 16 点

1. 《かんのんぼさつざぞう観音菩薩坐像》鎌倉後期～南北朝時代 像高 48.6 cm 伊豆の国市・北條寺
※静岡県指定文化財
2. 《じぞうぼさつざぞう地蔵菩薩坐像》貞和 5(1349)年 像高 18.4cm 熱海市・保善院 ※熱海市指定文化財
3. 《じぞうぼさつざぞう地蔵菩薩坐像》鎌倉時代 像高 73.5cm 三島市・光安寺 ※三島市指定文化財
4. 《のざきうしのすけいえつぐ野寄牛助家次像》江戸時代 像高 36.7cm 東伊豆町・個人蔵
5. 《でんかんのんぼさつざぞう伝観音菩薩坐像》南北朝時代 像高 44.2cm 伊豆市・修禅寺 ほか

(函南町・かなみ仏の里美術館蔵《観音菩薩立像》《地蔵菩薩立像》は 4/24 以降の展示)

[近代館] 28 点(そのほか第 3 展示室では上原コレクション 9 点を展示します)

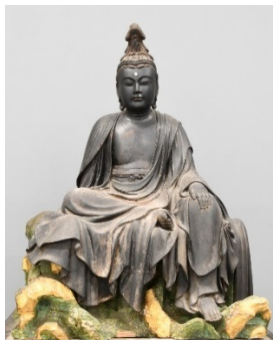
1. 牛島憲之《夕月富士》1987(昭和 62)年 油彩、カンヴァス 53.3×91.0 cm
2. 梅原龍三郎《北京長安街》1939(昭和 14)年 岩彩・油彩、紙 40.0×65.5 cm
3. 安井曾太郎《小高き丘》1913(大正 2)年 油彩、カンヴァス 35.0×38.0 cm
4. オーギュスト・ルノワール《アルジャントウイユの橋》1873 年 油彩、カンヴァス 46.0×63.0 cm ほか

一広報用画像

本展紹介記事等を記載される場合、以下の画像と展覧会チラシデータをご提供できます。

電話、またはメールにてご連絡ください。

※画像掲載をする場合、作品クレジットの明記をお願いいたします。



1.《観音菩薩坐像》
鎌倉後期-南北朝時代
伊豆の国市・北條寺
静岡県指定文化財



2.《地藏菩薩坐像》
1349(貞和 5)年
熱海市・保善院
熱海市指定文化財



3.《地藏菩薩坐像》
鎌倉時代
三島市・光安寺
三島市指定文化財



4.《伝観音菩薩坐像》
南北朝時代
伊豆市・修禅寺



5.《野寄牛助家次像》
江戸時代
東伊豆町・個人蔵



6.牛島憲之
《夕月富士》1987 年 ※当館新収蔵



7.安井曾太郎
《小高き丘》1913 年



8.オーギュスト・ルノワール
《アルジャントウイユの橋》1873 年

お問い合わせ

公益財団法人 上原美術館

【仏教館】櫻井和香子 【近代館】土森智典

〒413-0715 静岡県下田市宇土金 341

Tel. 0558-28-1228 / Fax. 0558-28-1227

E-mail: info@uehara-museum.or.jp

出品リスト

「伊豆半島仏像めぐり―伊豆13市町の仏たち―」

2019年4月6日(土)～6月30日(日) 会期中無休

【仏教館 展示室】19点 ※会期中に展示替がございました

作 品 名	制作年ほか	材料・技法	サイズ(cm)	所蔵	備考
1 じぞう ぼさつ ざぞう 地蔵菩薩坐像	1349(貞和5)	銅造	像高18.1	熱海市・ ^{ぼぜんいん} 保善院	熱海市指定文化財 ホワイエに展示
2 てんぶ りゅうぞう 天部立像	平安時代	もくぞう ちょうがん しつぱく 木造・彫眼・漆箔	像高41.2	伊東市・ ^{えきやういん} 恵鏡院	
3 のざきうしのすけいえつぐぞう 野寄牛助家次像	江戸時代	木造・彫眼・ ^{さいしき} 彩色	像高36.7	東伊豆町・個人蔵	
4 かのんのぼさつりゅうぞう 観音菩薩立像	平安時代	木造・彫眼	像高102.8	河津町・ ^{りんざいじ} 林際寺	
5 あみだによらいざぞう 阿弥陀如来坐像	平安時代	木造・彫眼	像高40.7	下田市・ ^{こうようじ} 向陽寺(当館 ^{きたく} 寄託)	
6 阿弥陀如来坐像	江戸時代	木造・ ^{ぎよくがん} 玉眼・漆箔	像高21.4	南伊豆町・ ^{せいりゅうじ} 青龍寺	
7 ふどうみょうおう 不動明王立像	平安時代	木造・彫眼・ ^{そじ} 素地	像高62.9	西伊豆町・ ^{えんじようじ} 圓成寺	
8 阿弥陀如来坐像(吉田寺)	鎌倉時代	木造・玉眼・漆箔	像高68.8	松崎町・吉田区(当館寄託)	
9 観音菩薩立像(吉田寺)	鎌倉時代	木造・彫眼・漆箔	像高105.0	静岡県指定文化財	
10 じぞうぼさつりゅうぞう 地蔵菩薩立像(吉田寺)	鎌倉時代	木造・彫眼・漆箔	像高96.8		
11 でんかんののぼさつざぞう 伝観音菩薩坐像	南北朝時代	木造・玉眼・彩色	像高44.2	伊豆市・ ^{しゅぜんじ} 修禪寺	
12 天部立像	鎌倉時代	木造・玉眼・彩色	像高41.4	沼津市・ ^{あけのかんのんどう} 赤野観音堂	
13 観音菩薩坐像	鎌倉後期―南北朝時代	木造・玉眼・漆箔	像高48.6	伊豆の国市・ ^{ほうじようじ} 北條寺	静岡県指定文化財
14 地蔵菩薩坐像(^{はなと} 鼻取り地蔵)	鎌倉時代	木造・玉眼・漆箔	像高73.5	三島市・ ^{こうあんじ} 光安寺	三島市指定文化財
15 観音菩薩立像	平安時代	木造・彫眼・漆箔	像高98.8	^{かななみちよう} 函南町・ ^{かななみ} 仏の里美術館	
16 地蔵菩薩立像	平安時代	木造・彫眼・彩色	像高96.1	静岡県指定文化財、展示期間4/24～6/24	
17 阿弥陀如来立像	鎌倉時代(13世紀)	木造・玉眼・漆箔	像高99.8	当館蔵	
				展示期間4/6～4/23、6/25～6/30	
18 びしゅもんでんりゅうぞう 毘沙門天立像	鎌倉時代(13世紀)	木造・玉眼・漆箔	像高80.1	松崎町・吉田区(当館寄託)	静岡県指定文化財
				展示期間4/6～4/23、6/25～6/30	
19 地蔵菩薩坐像	江戸時代	木造・玉眼・漆箔	像高23.4	下田市・向陽寺(当館寄託)	回廊に展示

【仏教館 その他】1点

作 品 名	制作年ほか	材料・技法	備考
1 ずしゅうかもぐんていしみだくつのず 豆州賀茂郡手石弥陀窟之図	江戸時代	木版	^{がん} 龕に展示

【近代館 その他】4点

作 家 名	作 品 名	制作年	材料・技法	サイズ(cm)	備考
1 ジャーコモ・マンズー Giacomo Manzù	^{いす ようなし きぬおりもの えだ} 椅子と洋梨、絹織物、枝 Sedia con pera, drappo e ramo	1988	ブロンズ	H130.0×W62.5× D62.5	エントランス
2 ジャーコモ・マンズー Giacomo Manzù	日本少女の胸像 Busto di bambina Giapponese	1982-89	ブロンズ	H51.0×W57.0× D29.0	エントランス
3 山本正道	春 '87	1999	ブロンズ	H32.0×W16.0× D10.0	エントランス
4 ジャーコモ・マンズー Giacomo Manzù	ストリップティーズ Striptease	1980	ブロンズ	H69.0×W26.5× D14.0	ラウンジ

「画家たちの旅―梅原龍三郎、牛島憲之、ルノワールが見た風景―」
2019年4月6日（土）～6月30日（日） 会期中無休

【近代館 第1展示室】24点

	作 家 名	作 品 名	制作年ほか	材料・技法	サイズ(cm)	備考
1	うじまのりゆき 牛島憲之	ゆうづきふじ 夕月富士	1987(昭和62)	ゆうさい 油彩、カンヴァス	53.3×91.0	新収蔵作品 当館初公開
2	牛島憲之	あめあか 雨明かる	1982(昭和57)	油彩、カンヴァス	45.5×91.0	
3	牛島憲之	スケッチブック	—	えんぴつ いろえんぴつ かみ 鉛筆、色鉛筆、紙		3冊
4	す だくにたろう 須田国太郎	なまこ かわべ いえ 壁の家	1954(昭和29)	鉛筆、紙	27.0×36.5	
5	須田国太郎	しもだ 下田	1956(昭和31)頃	コンテ、紙	27.0×36.5	
6	いとうしんすい 伊東深水	いずはつけいのうち ご ご しらはま 伊豆八景之内 午後の白浜	1939(昭和14)	もくはん かみ 木版、紙	25.0×37.3	新収蔵作品 当館初公開
7	伊東深水	伊豆八景之内 そうしゅん よしだ 早春の吉田	1938(昭和13)	木版、紙	24.6×36.9	新収蔵作品 当館初公開
8	伊東深水	伊豆八景之内 すみや ひんの 炭焼く日野	1939(昭和14)	木版、紙	24.8×37.0	新収蔵作品 当館初公開
9	伊東深水	伊豆八景之内 た ご よさめ 田子の夜雨	1939(昭和14)	木版、紙	24.7×36.8	新収蔵作品 当館初公開
10	伊東深水	伊豆八景之内 しらはま ざんしょう 白浜の残照	1938(昭和13)	木版、紙	24.6×36.8	新収蔵作品 当館初公開
11	うめはらりゅうざぶろう 梅原龍三郎	ふじ 富士	1945（昭和20）	ゆうさい がんさい かみ 油彩・岩彩、紙	78.1×65.0	
12	梅原龍三郎	ぺきん ちやうあんがい 北京長安街	1939(昭和14)	油彩・岩彩、紙	40.0×65.5	
13	梅原龍三郎	ばら ず 薔薇図	1940(昭和15)	油彩・岩彩、カンヴァス	56.2×29.6	
14	梅原龍三郎	くーにやんひきびわす 姑娘彈琵琶図	1943(昭和18)	岩彩、紙	88.5×38.5	
15	梅原龍三郎	姑娘	1942(昭和17)頃	コンテ、紙	65.2×49.4	
16	梅原龍三郎	ふうけい モレー風景	1911(明治44)	油彩、カンヴァス	61.2×73.4	
17	梅原龍三郎	おんな パリー女	1909(明治42)	油彩、カンヴァス	46.4×38.4	
18	やすいそうたろう 安井曾太郎	こ だか おか 小高き丘	1913(大正2)	油彩、カンヴァス	35.0×38.0	
19	安井曾太郎	スケッチブック	1908－11(明治41－44)頃	もくたん かみ 木炭、紙	31.0×24.0	
20	すだ くにたろう 須田国太郎	トマルにて	1920(大正9)	コンテ・鉛筆、紙	48.7×63.0	
21	おぎすたかのり 荻須高德	モンマルトル	1930－35(昭和5－10)	油彩、カンヴァス	73.3×60.0	
22	はまぐちようどう 浜口陽三	や ね パリの屋根	1956(昭和31)	リトグラフ、紙	18.3×18.4	
23	やまもとまさみち 山本正道	ちい きょうぞう 小さな胸像	2011(平成23)	だいりせき 大理石	27.4×30.0×23.0	
24	山本正道	ローマのアトリエ	1969(昭和44)	鉛筆、紙	33.3×23.5	

【近代館 第2展示室】11点

作 家 名	作 品 名	制作年ほか	材料・技法	サイズ(cm)	備考
1 ピエール＝オーギュスト・ルノワール Pierre-Auguste Renoir	アルジャントウイユの橋 ^{はし} Pont du chemin de fer à Argenteuil	1873	油彩、カンヴァス	46.0×63.0	
2 アドルフ・ジョアンヌ Adolphe Joanne	書籍『パリの周辺 イラスト入り』 Les environs de Paris illustres	1881 アシェット刊	紙	18.0×12.0	
3 クロード・モネ Claude Monet	ジヴェルニー付近 ^{ふきん} のセーヌ川 ^{がわ} La Seine près de Giverny	1894	油彩、カンヴァス	53.0×80.5	
4 アルフレッド・シスレー Alfred Sisley	あきふうけい 秋風景 La plaine de Champagne du haut des Roches– Courtaut	1880	油彩、カンヴァス	50.0×65.0	
5 アルベール・マルケ Albert Marquet	ひ ふね 曳き舟 Le remorqueur	1920	油彩、カンヴァス	33.0×41.0	
6 アルベール・マルケ Albert Marquet	霧 ^{きり} のリーヴ・ヌーヴ、マルセイユ Quai de Rive Neuve, la brum, Marseille	1918	油彩、カンヴァス	32.4×40.8	
7 アルベール・マルケ Albert Marquet	はながしゅう 版画集 Dix Estampes Originales	1947 ロンバルディ刊	リトグラフ、紙 限定100部の34番	36.0×26.0	全10枚のうち6枚展示
8 ピエール・ボナール Pierre Bonnard	あめふ 雨降り ^{ふうけい} のル・カネ風景 Paysage du Cannet sous la pluie	1946	油彩、カンヴァス	51.6×64.6	
9 アンリ・マティス Henri Matisse	かがみまえ た しろ 鏡 ^き の前に立つ白いガウン ^{らふ} を着た裸婦 Nu au peignoir blanc debout devant la glace	1937	油彩、カンヴァス	46.0×38.0	
10 アンリ・マティス Henri Matisse	あか や ね 赤い屋根 ^{ふうけい} のある風景 Paysage au toit rouge	1920頃	油彩、カンヴァス	38.0×45.6	
11 オディロン・ルドン Odilon Redon	ダンテとベアトリーチェ Dante et Béatrice	1914頃	油彩、カンヴァス	50.0×65.2	

【近代館 第3展示室】9点

作 家 名	作 品 名	制作年	材料・技法	サイズ(cm)	備考
1 やまぐちか よう 山口華楊	りんご 林檎	1968(昭和43)頃	しほんさいしよく、かくそう 紙本彩色、額装	45.0×56.0	
2 パブロ・ピカソ Pablo Ruiz Picasso	まず しよくじ 貧しき食事 Le repas frugal	1904	エッチング、紙 ^{かみ}	46.3×37.7	
3 やまぐちほうしゅん 山口蓬春	もも 桃	1964(昭和39)	紙本彩色、額装	41.0×53.0	
4 —	じゅういちめんかんのんぼさつりゅうぞう 十一面観音菩薩立像	平安時代(10世紀)	木造、漆箔、彫眼	像高52.2	じゅうようびじゅつひん 重要美術品
5 モーリス・ユトリロ Maurice Utrillo	げきじょう アトリエ劇場 Le théâtre de l'Atelier	1915	油彩、カンヴァス	46.0×55.0	
6 きしだりゅうせい 岸田劉生	せいぶつ 静物	1921(大正10)	油彩、カンヴァス	45.3×38.0	
7 アンドレ・ドラン André Derain	ふじんぞう 婦人像 Portrait de femme	1934–39頃	油彩、カンヴァス	50.0×44.5	
8 かづきやすお 香月泰男	なでしこ 撫子	1971(昭和46)頃	油彩、カンヴァス	33.0×22.0	
9 よこやまたいかん 横山大観	とうかい あさ 東海の朝	1937(昭和12)頃	紙本彩色、軸装 ^{じくそう}	75.5×105.5	